6.1.1.4.4.　窒素酸化物

試験中に車両の排気管より排出されたNO_xの質量を以下の式により計算するものとする。

$$NO_{xm}=\frac{NO_{xc}\times K_h\times V\times dNO_2}{dist\times 10^6}$$

NO_{xm}：試験パート中に排出されたNO_xの質量（g／km）
dist：6.1.1.3.で定めた距離
V：6.1.1.4.1.で定めた総容量
dNO_2：温度20℃及び圧力101.3kPaにおけるNO_xの形を想定した場合の排出ガス中のNO_xの密度。dNO_2＝1.91kg／㎥とする。
NO_{xc}：以下の式によってppm単位で表した希釈ガスの濃度を、希釈空気を考慮して補正した値

$$NO_{xc}=NO_{xe}-NO_{xd}\times\left(1-\frac{1}{DF}\right)$$

NO_{xe}：回収された希釈排出ガスサンプル中のNO_xの濃度をNO_xのppm単位で表した値
NO_{xd}：回収された希釈空気サンプル中のNO_xの濃度をNO_xのppm単位で表した値
DF：6.1.1.4.6.で定めた係数
K_h：以下の式で計算する湿度補正係数

$$K_h=\frac{1}{1-0.0329\times(H-10.7)}$$

H：乾燥空気中の絶対湿度を１kgあたりの水分の量（g）で表した値

$$H=\frac{6.211\times U\times P_d}{P_a-P_d\times\frac{U}{100}}$$

U：%単位の湿度
P_d：試験温度での水の飽和圧力をkPa単位で表した値
P_a：kPa単位で表した大気圧

6.1.1.4.5.　二酸化炭素

試験中に車両の排気管より排出されたCO_2の質量を以下の式により計算するものとする。

$$CO_{2m}=\frac{CO_{2c}\times V\times dCO_2}{dist\times 10^2}$$

CO_{2m}：試験パート中に排出されたCO_2の質量（g／km）
dist：6.1.1.3.に定められた距離
V：6.1.1.4.1.に定められた総容量
dCO_2：温度20℃及び圧力101.3kPaにおけるCO_2の密度。dCO_2＝1.83kg／㎥とする。
CO_{2c}：以下の式によって二酸化炭素等量の%単位で表した希釈ガスの濃度を、希釈空気を考慮して補正した値

$$CO_{2c}=CO_{2e}-CO_{2d}\times\left(1-\frac{1}{DF}\right)$$

CO_{2e}：回収された希釈排出ガスサンプル中のCO_2の濃度を%単位で表した値
CO_{2d}：回収された希釈空気サンプル中のCO_2の濃度を%単位で表した値
DF：6.1.1.4.6.で定めた係数

6.1.1.4.6.　希釈係数

DFは、以下の式によって表される係数である。

$$DF=\frac{13.4}{CO_2+(CO+HC)\times 10^{-4}}$$

ここで、CO、CO_2及びHCは、回収された希釈排出ガスサンプル中のHC及びCOの濃度をppm単位で表した値とCO_2の濃度を%単位で表した値である。

6.1.1.5.　結果の重み付け

6.1.1.5.1.　複数のサイクルパートで試験を実施する場合（5.1.1.1.参照）、6.1.1.に記述した計算方法で得られた排出量（g/km）を各サイクルパートにつき平均する。

6.1.1.5.2.　パート１又は低速でのパート１の結果を記号R_1で表し、パート２又は低速でのパート２の結果を記号R_2で表し、パート３又は低速でのパート３の結果を記号R_3で表す。これらの排出量（g/km）を用いて、4.3.で定義した車両クラスに応じて、最終結果Rを以下の式より計算するものとする。

クラス１　$R=R_1\times w_1+R_{1hot}\times w_{1hot}$
クラス２　$R=R_1\times w_1+R_2\times w_2$
クラス３　$R=R_1\times w_1+R_2\times w_2+R_3\times w_3$

6.1.1.5.3.　CO等に対し、表５に示す重み付けを用いるものとする。

表５：最終的なCO等の結果に対する加重係数

車両クラス	サイクル	重み付け	
クラス１	パート１、低温	w_1	50%
	パート１、高温	w_{1hot}	50%
クラス２	パート１、低温	w_1	30%
	パート２、高温	w_2	70%
クラス３	パート１、低温	w_1	25%
	パート２、高温	w_2	50%
	パート３、高温	w_3	25%

6.2.　タイプⅡ試験

6.2.1.　二次空気導入装置等を用いる一酸化炭素等発散防止装置を備えた試験二輪車等にあっては、CO及びHCの補正済み濃度（容量%単位のC_{COcorr}、容量ppm単位のC_{HCcorr}）を以下の式によって計算する。

6.2.1.1.　CO又はHCの濃度補正値

$$C_{COcorr}\text{又は}C_{HCcorr}\times\frac{14.5}{1.8\times 6C_{HC}\times 10^{-4}+0.5C_{CO}+C_{CO2}}$$

C_{CO}：CO濃度測定値　（%）
C_{HC}：HC濃度測定値　（ppm）
C_{CO2}：CO_2濃度測定値　（%）

別紙１

試験燃料の性状等

原付自転車および二輪自動車等に使用するガソリンの標準規格は、表１のとおりとする。

燃料の性状又は物質名	基準		試験方法
	レギュラー	プレミアム	
鉛	検出されない		ＪＩＳ　K2255
硫黄分	10wt—ppm以下		ＪＩＳ　K2541—１ ＪＩＳ　K2541—２ ＪＩＳ　K2541—６ ＪＩＳ　K2541—７